

12月27日(土)

2025年(令和7年)

発行所：東京都千代田区一ツ橋1-1-1
〒100-8051 電話(03)3212-0321
毎日新聞東京本社

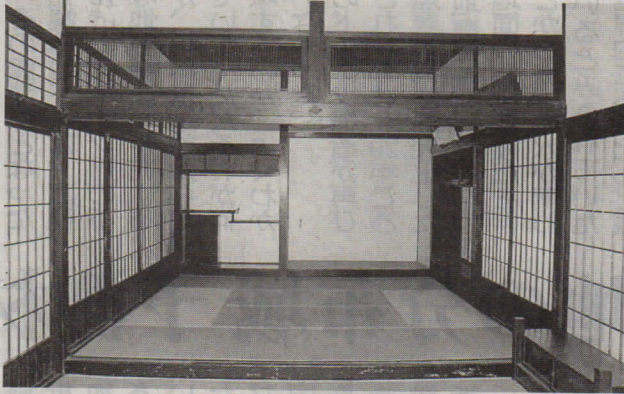
深谷宿本陣を観光拠点に

ものづくり大活用計画案

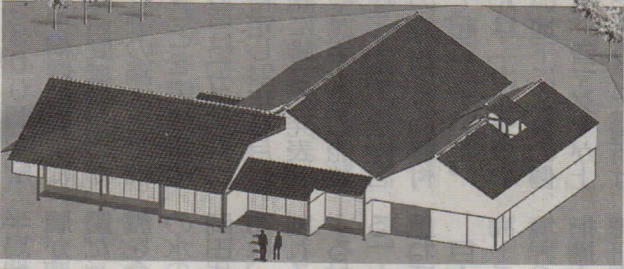
遺構残して復元整備

中山道の宿場町として栄えた深谷宿(深谷市)で貴重な遺構が残る「深谷宿本陣」を巡り、ものづくり大学(行田市)の横山晋一教授の研究室が復元整備して観光拠点として活用する計画案をまとめた。深谷市は所有者の意向を確認した上で、今後の整備方針を検討する見通し。

深谷宿本陣は江戸中期の1752年から現在の深谷市深谷町にあった飯島家が継承し、明治政府による本陣廃



⑤ 違い棚や床の間を備えた深谷本陣遺構の上段の間
⑥ 深谷本陣遺構の復元案外観鳥瞰(ちょうかん)
図一いづれも、ものづくり大学横山研究室提供



絶命まで役割を担った。主に参勤交代の大名が宿泊したほか、幕末の1861年に孝明

天皇の妹の皇女和宮が14代将軍徳川家茂に降嫁した際、ここで休憩したことでも知られる。

約411平方メートルの広い屋敷があった本陣は

1877(明治10)年の大火で類焼した。しかし、大名が泊まった上段の間や「次の間」など6部屋部分は地域住民が必死に火災から守り抜いた。現在も保存継承され、「深谷本陣遺構」として市指定有形文化財(1958年指定)となっている。

1877(明治10)年 さん(22)が11月26日、深谷市役所で開かれた深谷公民連携まちなか再生会議で講演し、初披露した。

深谷市が進める現行の中心市街地区画整理事業では、本陣遺構も立ち退き移転の対象で、指定有形文化財をどのように維持・保存するかが課題だった。研究室では、飯島家に保管されていた本陣古絵図や各地に現存する本陣を調べ、湯殿や炊事場などを参考にしながら具体的な復元図面案を作った。すると、市の現案の移転予定地では復元建物が入りきらないことがわかった。

計画に先立ち、飯島家が横山研究室に調査などを依頼していた。具体策をまとめた同研究室所属の同大院修士課程1年の金田みずき

このため、遺構を現地に残して増改修する形で復元整備を行い、観光拠点として市民や観光客が安らげる空間を整備する案とした。一連の説明を終えた金田さんは「歴史とまちづくりを融合させた手法により、新たな深谷のまちづくりの積極推進が期待される」と締めくくった。

横山教授は、同市出身で近代日本経済の父とも称される渋沢栄一の「共存同栄」の言葉を引用し、「文化財の維持保存と都市再生の共存が図られ、全国的にも好ましい事例になる」と期待を寄せた。

【中山信】